

タイルフィックス

工業会設立

初代会長に中坂勇二氏

外壁タイル剥落防止技術「タイルフィックス工法」の責任施工団体であるタイルフィックス工業会は三月十九日、東京・千代田区の如水会館で設立総会を開催した。

工法開発に携わった難波建築研究室・難波蓮太郎代表は冒頭で挨拶に立ち「これから発展する団体。今後とも運命共同体として一体となり、工法を世の中に広めたい」と述べた。

その後審議された議案はすべて原案どおり可決承認され、初代会長には中坂勇二氏（リーテック）が就任した。初年度の事業計画は①材料・工法・施工技術の開発・改良②講習会開催——など。

中坂会長（写真）は

「本工法は、小面積点状型の剥離への対応、剥離予備軍の補強、軽微な作業というメリットがある。これまで立ち上げに関わった方々に深く感謝したい」と述べた。また、メーカーを代表して挨拶に立った東邦建材・野口貴由副社長は「まだスタートラインに立ったばかり。メーカーとして尽力していきたい」と述べた。総会後は首都大学東京の橋高義典教授が「建築外壁材料の美観維持」をテーマに記念講演を行った。

